

旧板橋第三小学校跡地活用基本構想

旧板橋第三小学校については、平成 14 年 3 月の閉校以来、旧校舎に改修を加えて用途転用し、いたばしボローニャ子ども絵本館、いたばし総合ボランティアセンターなどとして暫定利用している。今般、新たな行政需要への対応として先行して進めている「(仮称) 子ども家庭総合支援センター」の検討及び当該地域が持つ特性を踏まえ、跡地活用の基本構想を以下のとおり定める。

1 活用の方向性

【テーマ】

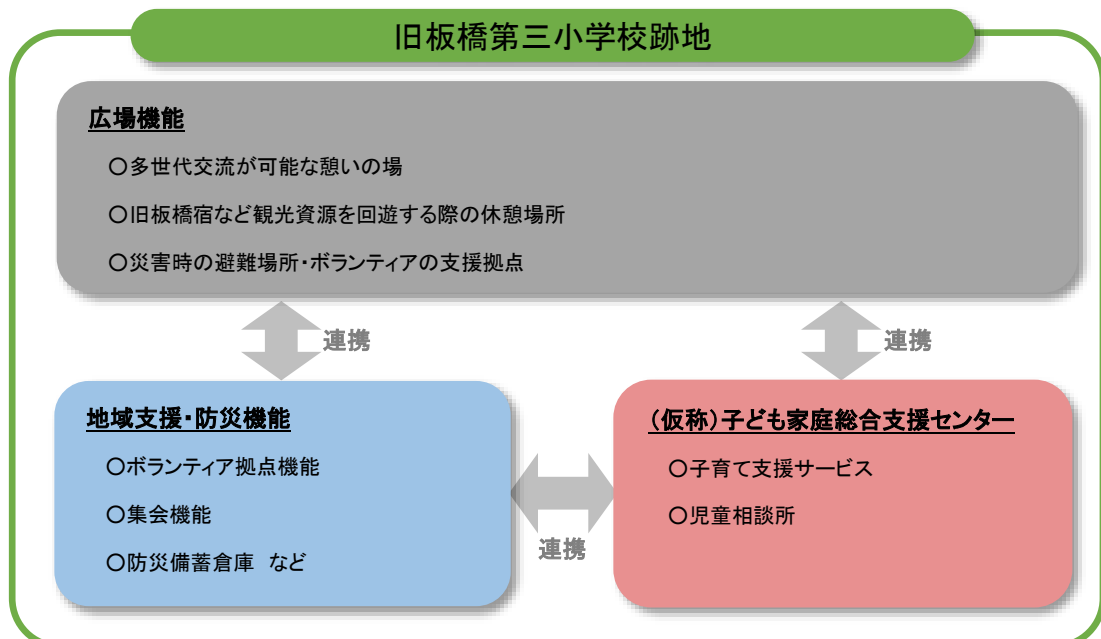
子どもの健やかな成育を支える、多世代交流・防災機能を備えた総合拠点

(1) 核となる機能

- ① (仮称) 子ども家庭総合支援センターの整備
- ② 防災・コミュニティ機能の充実
- ③ 上記①②との相乗効果が期待できる機能
- ④ 暫定利用機能の継承

(2) 整備すべき機能

- ・ 児童相談所
- ・ 子育て支援サービス
- ・ 広場機能
- ・ ボランティア拠点機能 (防災・社会福祉・観光)
- ・ 集会機能
- ・ 暫定利用機能 (いたばし総合ボランティアセンター、板橋区保護司会更生保護サポートセンター、防災備蓄倉庫、板橋第三小・稲荷台小学校記念室 等)



2 具体的な整備案

(1) (仮称) 子ども家庭総合支援センターの整備

児童相談所と子ども家庭支援センターの機能を併せ持つ(仮称)子ども家庭総合支援センターの整備については、病院や警察、区役所等の関係機関との連携や交通利便性等を考慮し、当該地に整備することとした。

(2) ボランティア拠点機能の整備

地域の特性及び防災上の課題を踏まえ、ボランティア等の社会資源に関するネットワーク形成及びコーディネート等を担う総合ボランティアセンター機能を確保する。

災害時に支援活動を希望する個人や団体の受け入れ調整やマッチング活動の円滑化を図るには、全国規模のネットワークが活かせる社会福祉協議会との連携が期待される。

総合ボランティアセンター機能と複合化することで、平時においても社会福祉・地域活動等の分野で相乗効果を生み出すことができると考えられることから、板橋区社会福祉協議会事務所の配置に向けた検討を進める。

機能を確保するにあたっては、現行のいたばし総合ボランティアセンターの現状及び課題について把握・分析した上で、ボランティアセンターのあるべき姿について整理する。

(3) 広場機能

防災上の課題を踏まえ、都市のオープンスペースとして多目的に活用可能な広場を整備する。

<平時の用途>

- ・子育て世代を含む多世代交流が可能な憩いの広場
- ・防災訓練等の実施
- ・縁切り榎等の旧板橋宿にある観光資源を回遊する際の休憩場所 等

<災害時の用途>

- ・地域の避難地、避難路及び延焼防止
- ・全国からの支援ボランティアの集合場所 等

(4) 防災備蓄倉庫の整備

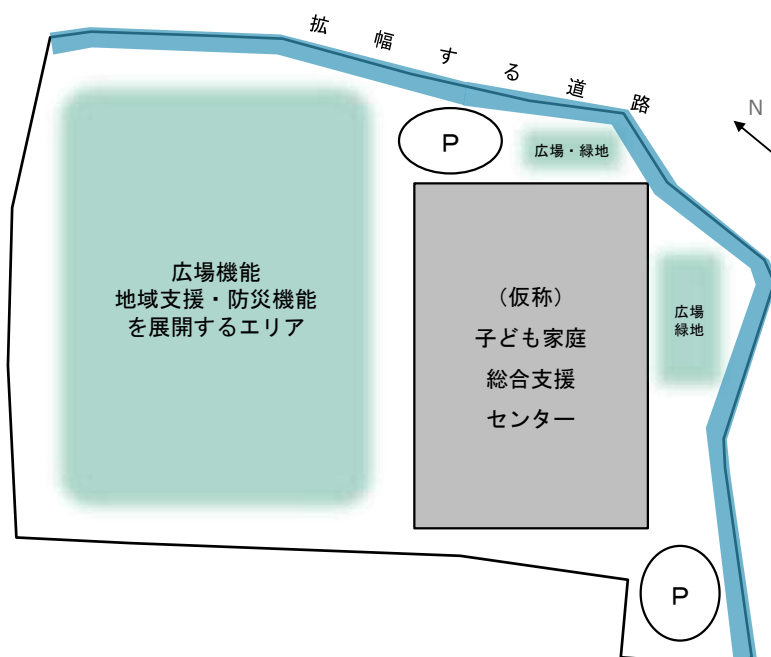
避難場所としての機能に加え、発災時に環状七号線以南へ不足物資の供給を速やかに行うことができるよう、防災備蓄倉庫を確保する。

(5) 集会機能の整備

地域及び防災・観光等のボランティアの会議・研修等、多目的に活用可能な集会機能を確保する。

(6) 道路の拡幅

防災上の課題を踏まえ、迅速に安全・安心なまちづくりを実現するために、周辺の狭隘道路について、幅員 6 m の公道に拡幅整備を行う。



整備後の敷地のイメージ

3 整備スケジュール

(1) 第1期（～平成33年度）

新たな行政需要への対応となる児童相談所機能を含む（仮称）子ども家庭総合支援センターについては、第1期として以下の工程に沿って先行して整備を進める。

（仮称）子ども家庭総合支援センターの整備工程

	平成 30 年度（2018 年度）	平成 31 年度（2019 年度）	平成 32 年度（2020 年度）	平成 33 年度（2021 年度）
施設整備	基本設計・実施設計		建設工事	
解体工事 （体育館、プール、東側校舎等）	解体設計	解体工事		
児童相談行政の体制・組織	検討	組織・人員の検討		
人材の確保・育成	長期派遣研修、採用			
児童相談所設置市の事務	課題検討	組織・人員の検討、事務引継		

(2) 第2期（（仮称）子ども家庭総合支援センター開設以降）

（仮称）子ども家庭総合支援センターを除くその他の機能については、第2期として、（仮称）子ども家庭総合支援センターが開設予定の平成33年度以降に機能の確保を図る。

第2期整備については、児童相談所機能に関する、現時点で見定めることができない課題や、開設までに解決しなければならない課題を見据え、検討していく。

4 敷地の特性及び課題

(1) 立地、交通環境及び周辺環境

旧板橋第三小学校跡地は、6,000 m²を超える大規模な敷地である。空地が少ない周辺地域において、防災・地域コミュニティ活性化という2つの重要な役割を担ってきている。

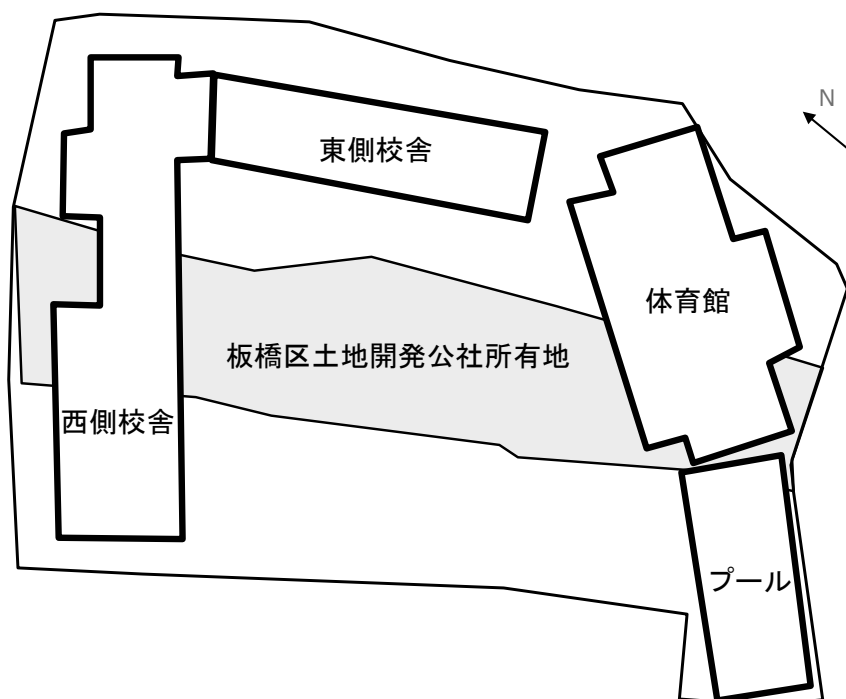
都営三田線板橋本町駅至近であり、国道17号、環状七号線及び首都高速5号池袋線板橋本町出入口に近く、交通の便が良い。

板橋区役所本庁舎、板橋警察署及び板橋消防署等の官公庁に近接している。また、近隣には災害拠点病院として指定されている帝京大学医学部附属病院が位置する。

(2) 歴史及び地域文化

周辺は中山道の宿場町として栄えた板橋宿周辺のエリアであり、石神井川の桜や旧中山道沿いの縁切り榎、板橋区の地名の由来とされる板橋等の観光資源が豊富である。

平成14年3月の閉校以来、旧校舎を改修して用途転用し、いたばしローニャ子ども絵本館、いたばし総合ボランティアセンター等として暫定利用している。いずれの施設も10年程度継続して現地で運営してきた。



敷地現況配置図

(3) 行政課題・地域課題

①児童相談所の設置

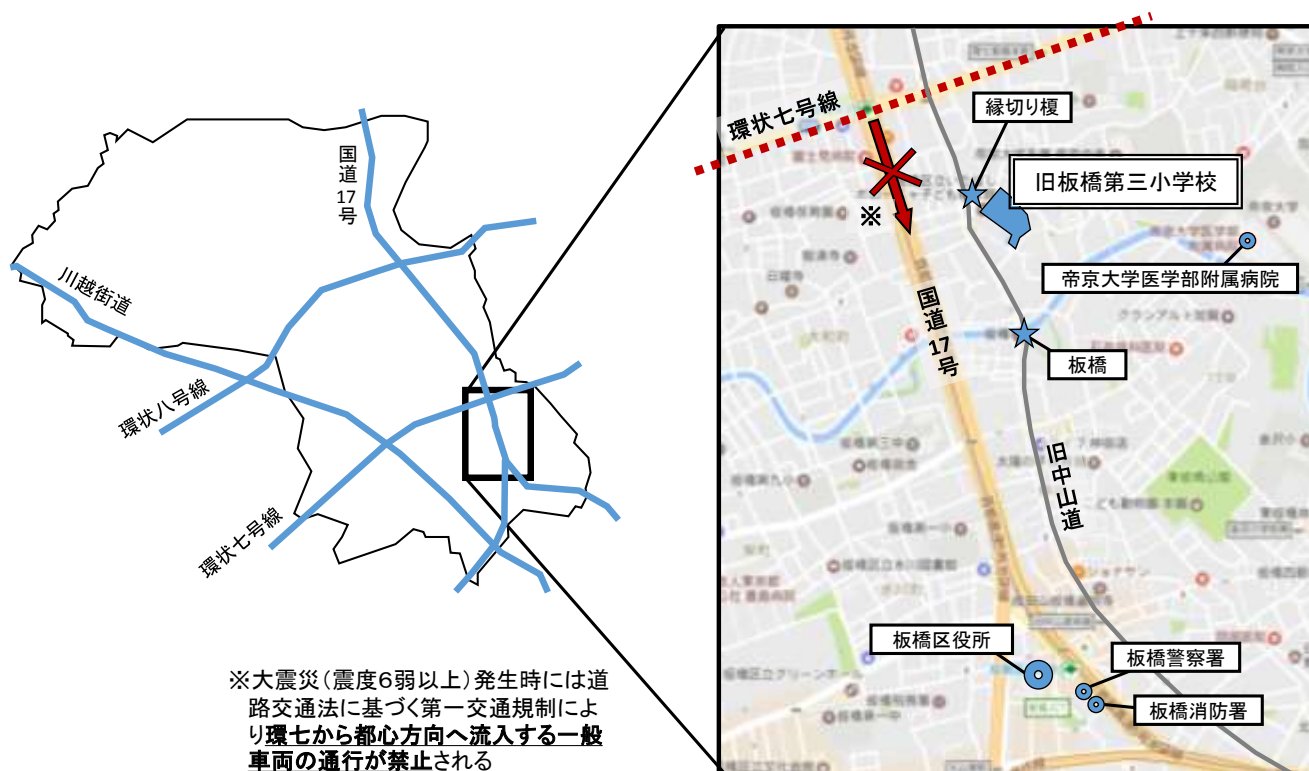
児童相談所の設置が喫緊の課題となっており、すべての子どもの健やかな成育を切れ目なく支援する子ども・家庭・地域の子育て機能の総合支援拠点が必要である。

②区全体の防災上の課題

震度6弱以上の大震災発生時には国道17号が緊急自動車専用路となり、環状七号線以南への一般車両の通行が禁止されるため、物資の輸送に支障が生じることが想定される。

③地域における防災上の課題

旧板橋第三小学校周辺地域は、狭隘道路が多く、狭小敷地と木造住宅が密集する市街地が形成されており、震災時の建物倒壊、火災の延焼、避難上の危険性が高く、防災上の課題を抱えている。



周辺配置図